

単元名 暮らしに息づく土の造形(デザインや工芸など)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 焼き物の材料、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、温かさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 焼き物の特性や美しさなどを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどとの調和を考え、表現する構想を練ることができる。焼き物のよさや使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

10270206_001

【準備等】陶土、釉薬、へら、延べ棒、たた板、焼き物に必要な用具、筆記用具、型押しの材料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を鑑賞し、焼き物ならではのよさについて考える。</p> <p>○ 陶芸作品のできるまでについて解説を聞く。</p> <p>★ 焼き物ならではのよさは、どこにあるのだろうか。</p> <p>○ 教科書の大皿を鑑賞し、この器のよさについて考える</p> <p>○ 様々な形や色の器を用意し、それらに合う料理を考える。</p> <p>○ 焼き物ならではのよさについて話し合う。</p> <p>2～5 主題を決め、構想を練り、制作する。</p> <p>★ 焼き物ならではのよさを生かした作品制作をしよう。</p> <p>○ 指示された形を、道具を使わずに粘土でつくる。</p> <p>○ 板状の粘土を利用し、どのような器の形ができるかをイメージさせる。</p> <p>○ 加工体験を踏まえて、どのようなものを盛る器にするのかを決め、アイデアスケッチの中で形、色（釉薬）、大きさを決める。</p> <p>○ アイデアスケッチを元に板状の粘土を使って制作を進める。</p> <p>○ 削りや加飾など表現の工夫と効果を考えながらイメージした作品に近づける。</p> <p>○ 釉薬の種類や特性、焼成色見本を参考に表現方法を考えて施釉する。</p> <p>6 鑑賞会を行う。</p> <p>★ 焼き物ならではの美しさや使いやすさを感じ取り、伝え合おう。</p> <p>○ 家で料理を盛った状態の写真を撮影し、その写真と作品を鑑賞し、料理を盛ってみての感想を伝え合う。</p>	<p>・ 土から焼き物ができるまでの大きな流れを伝える。</p> <p>・ いちごが盛られたこの大皿について形や釉薬の2つの視点でよさを発見させる。</p> <p>・ さまざまな形、大きさ、色の器を見せ、どんな料理が合うかを考えさせる中で、料理に合った形、釉薬があることをつかませる。</p> <p>・ 「造形的な視点」について確認させる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちを基に、使いやすさなどの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 授業者が指示した形（球体・立方体、紐）を短時間で作らせたり、切り糸を使って粘土を切らせたりする活動を通して、粘土の特性に気付かせる。</p> <p>【評】 焼き物のよさや使いやすさなどを生かしてつくることに関心をもち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 板状の粘土にさまざまな道具で加工を加え、構想を練らせる。</p> <p>・ 加工体験を踏まえて、器のデザインをまとめさせる。</p> <p>・ どのようなものを盛る器なのか、誰がどのような場面で使うものなのかを考えながら器のデザインを考えさせる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちなどを基に、使いやすさなどの工夫を考えながら、構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 生徒の表現意図に併せて表現材料を選ばせ、作業を進めさせる。</p> <p>【評】 焼き物の材料、形や色彩などに着目し温かさなどをとらえ、加工方法を工夫して見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 焼成見本を見せ、自分のイメージに合った釉薬をかけさせる。</p> <p>・ 料理を実際に盛ってみて分かったことや家族からの感想などを交えた発表をさせながら互いの作品を鑑賞させる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちなどをもとに、使いやすさなどの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

器を購入するときに私たちは見た目の美しさやデザイン性だけでなく、器を手にとって無意識のうちに機能性を確認する。このように工芸品は美しさやデザイン性だけでなく機能性も求められる。本単元では、どのような場所で、誰が使うものなのかをよく考え使う人が使いやすいデザインを考えさせたい。また、1200度を超える温度で焼成されるため作品の形が変わったり、大きさが縮んだりする。イメージする器を作るときには焼成による変形や縮みを踏まえて成形をさせたい。さらに、使用する粘土や釉薬によって作品の仕上がりが大きく異なるため、作品イメージに合わせて使用する粘土や釉薬を考えさせ、焼き物の奥深さに触れさせたい。